

緑地新聞

3

2018年12月発行

何故、私達は竹を切るのか

十月六日(土)、本プログラムから十五名の大学生が参加し、竹林整備活動を行いました。今回の活動内容は、竹を切り緑地内の整備をすること・切った竹を竹炭として再利用する為の準備を行うことです。

朝九時半に十三号館前に集合。着いた直後から、竹の肥料である落葉が入った袋を竹林に運びました。落葉が入った五〇近くの袋は、先日の雨で水分を含んでいて作業はかなり大変でした。銀杏が入った袋の周りはGを筆頭にムカデ、コオロギと緑地の虫達でいっぱいでした。

その後、竹のあるエリアへ行って竹を伐採。一人一〜二本を目安に竹を切りました！竹を切



る際には、地面に対して水平に切れ込みを入れたり、刃先が竹に噛まないようにしたりする等、とても集中力を使う大変な作業でしたが、その分、高めの竹を自分で倒せた時には、大きな達成感を感じることができました。切った竹は作業場まで運び出します。竹を適当な長さに切り、四つ割りに。そして、かまどに詰めていきます！かまどは思ったよりも大きく、割った竹をぎっしり詰めていくのはなかなか大変でした。



▲4つ割り体験。注目の的に

活動を通して、竹林整備の意義を自分なりに以下の二点にまとめました。一つ目は、竹の侵略を防ぐことです。竹は、毎年3m程、地下茎を伸ばし、そこからタケノコを生やします。雑木林の中では、どんどん地下茎が伸びていき、陣地を拡大していきます。さらに、タケノコはわずか二、三年で十数m、元気な場合二十数mまで育ちます。最終的に竹は、他の樹木から光を奪って雑木林を乗っ取ってしまうのです。

二つ目は崖崩れを防ぐことです。様々な種類の樹種が混ざり合う雑木林では、深くまっすぐに根を伸ばして「杭」の役割を果たす木と、横に根を張り、土を抑える「ネット」の役割を果たす木が協力しあって、崖崩れを防いでいます。



▲この経験は11月の活動へ繋がります

しかし、竹の地下茎は、横に広がるので、土を押さえるネットの働きには優れています。が、「杭」の役割がありません。そのため、当然、大雨等の際には地面がずり落ちる危険性が高く、松木日向緑地にもあるような急斜面では、特にその危険性が高くなるわけなのです！

こうして当日の活動やひなた緑地遊学会の方々のお話や活動を通して、自分達が行うボランティア活動の意義を改めて確認することができました。さらに、竹の根本にアリの大群がいるのを見て、竹林の生態系についてもさらに学びたいと感じました。

環境保全に取り組めたことへの達成感を強く感じられた一日でした。

参考 『竹林問題 森づくり最前線 天然水野盛 サントリー』
URL https://mobile.suntory.co.jp/seo/forest/protect/problem.html?transfer=pc_to_mobile (最終アクセス: 2018年11月16日)

松木日向緑地プログラムとは

首都大学東京の奥地に存在する松木日向緑地で毎年九月から、月に一度程度、社会課題(下記参照)の解決を目的に学生主体で竹林整備の活動を行っています。さらに、伐採した竹(緑)を、利活用し、近隣地域の方々との交流(縁)等へと役立てています。

プログラムの中には、ボランティア活動の意義や社会の課題、背景を学ぶ事前学習と活動を多角的に振り返る事後学習があり、通常活動である竹林整備と連動した内容・構成になっています。

社会的課題

- 環境: 里山荒廃による生態系への悪影響
- 文化: 自然利用の技術・文化伝承の断絶
- 地域: 少子高齢化に伴う世代間交流やコミュニティの希薄化
- 大学: 豊かな緑地資源に対する認知度の低さ

12月は緑地に入ろう！

ボランティアセンターイベント



あなたがまだ知らない首都大の自然の美しさや素晴らしさを一緒に写真に撮ってみませんか？

撮影・自然巡りが好きな方は是非ご参加ください♪

竹林伐採体験を実施します！

12/16 (日)
9:30-14:00

その他、工作や竹割体験なども予定！初心者の人にもわかりやすく教えます。

竹を切って、2018年を納めてみませんか？



竹を倒せずに、年は越せない！

編集発行
文章担当

首都大学東京ボランティアセンター (南大沢キャンパス 一号館一階)
電話 〇四二-六七七-二三五四 メール tmu-volunteer@mjimu.ac.jp
地域ボランティアプログラム①「松木日向緑地プログラム」メンバー 生命科学 二年・T